

義足提供に「感謝」

大地震で被災 AMDA支援 ハイチの少女来岡

国際医療ボランティア
AMDA（菅波茂代
表、岡山市北区伊福町）
が昨年1月に起きたハ

イチ大地震の被災地で、義足の提供を受け
行った義肢支援事業「たハイチ人少女ガエル



義足の提供を受けて感謝の気持ちを知るエズ
ナールさん（左）。中央はAMDAの菅波代表

・エズナールさん(18)
が15日、AMDAの招
きで岡山市を訪れて会
見し、「活動に感謝し
ている。ありがとう」
と述べた。

エズナールさんは首
都・ポルトープランス
にあった自宅アパー
トの倒壊でがれきの
下敷きになり、右足を
ひざ上で切断。昨年
10月、義足を提供され
た。

21日まで滞在し、神
戸市で阪神・淡路大震
災の被災者と交流した
り、各地である活動報
告会に臨む。エズナ
ールさんは「被災者と話
すのが楽しみ。ショッ
キングな体験後、どう
生きてきたかを聞き、
人生の参考にしたい」
と話している。

ハイチ大地震の死者
は31万人を超えるとき
れ、80万人以上がテ
ント生活を余儀なくさ
れている。治療の遅れ
などから4千人以上が
足を切断したという。

AMDAは緊急医療
活動や復興支援のた
め、多国籍医師団や調
整員ら延べ44人を現地
に派遣。42人分の義足
を製作したほか、コレ
ラの予防、治療にも当
たった。

現地を受け皿が不十
分な状況にあり、今月
に入って全ての活動を
いったん終了。設立準
備が進むハイチ支部の
基盤が整い次第、あら
ためて支援に取り組む
ことにしている。